

別紙：平成 17 年度ルート活動報告に対する参考意見

1. 支笏洞爺ニセコルート

§ 視点 1 ルート運営活動計画にもとづく活動状況について

- 平成 17 年度、ルート運営活動計画に基づき、実際に取り組みが行われているか。

◎ 景観づくり活動に関する感想

A：①自然的景観資源の利活用にとどまらず、「身近な景観の形成や調査」などについて取り組んでいる事を評価したい。特に羊蹄ニセコエリアでは、北海道・地元自治体・地域活動団体などが協力・連携して「景観計画」や「景観条例」の策定に取り組んでいる事は高く評価したい。

②後継者の育成を期待したい。

B：モデルルート時代からの取組の活動の歴史があり、様々な試みを通して深い意欲が感じられる。3 地区の連携も円滑に行われているように見受けられる。日本全国を対象に開始された「日本風景街道」の成功モデルとして、更なる取組の深度化を期待する。

◎ 地域づくり活動に関する感想

A：①エリア内のサブルートの発掘や情報発信などについて、地域ごと独自の活動を展開している事を評価したい。

②後継者の育成を期待したい。

B：地域が抱えておられる悩みは継続性確保のための人材確保・育成であると同った。地域の将来を担う子供世代を含む人材育成による継続的な改善意欲、新規事業へのチャレンジ等課題は多いと思われるが、成果と課題を数値化することにより定量化されたチャレンジ目標が作れないものか。

◎ 観光振興活動に関する感想

A：①既存の「観光」から、あたらしい地域づくりと結びついた「ツーリズム」へと脱却し、独自で着実な活動を展開してきていることを評価したい。

②後継者の育成を期待したい。

B：現在は地域内の活動が中心であるように思われる。外国人観光客モニターツアーのように外へ目を向けた取り組みが必要になって来ている様に思われる。大都市圏に向けた観光誘致活動、例えば観光客誘致キャラバン隊や通年型の観光誘致事務所機能の確保等の工夫を投入すべきであり、国内旅行振興に脱皮しようとしている旅行業との連携も積極的に行っていただきたい。

★ 特に注目する活動

A：羊蹄山麓広域景観づくり	【理由】羊蹄ニセコエリアにおける、「羊蹄山麓広域景観づくり」との強い連携・協働活動は、ローカルアジェンダとローカルルールを独自につくり出そうとする活動であり、景観法策定後のわが国でも先進的な取り組みとして評価できる。
B：SW-9・ST-7・SN-26 外国人モニターツアー	【理由】外に向かった活動

◎行政の取り組みに対する感想

A：市町村の連携的な支援は、地域再生の重要な要因である。今後のより一層の支援を期待したい。

B：活動の主体を民間に任せている感がある。
これはある意味では望ましいことではあるが、距離を置きつつもフォローは必要。

§ 視点2 ルート運営状況について

- ・ ルート運営活動計画の基本方針に基づく、会議の開催、事務局体制等の運営状況について。

◎地域の運営状況について

A：①これまでの活動や取り組みについての多面的な評価を、多くの関連領域の専門家等を交えながら、持続性と発展性を強く意識して、活動の広がりや深まり、そして連携をつくりながら運営していく事を期待したい。

B：活発に行っており大いに成果が上がっている。その成果を踏まえての課題抽出もある程度で来ているので、運営は進捗している。

◎行政の運営状況について

A：①人材育成（後継者育成も含め）や活動団体の研修などの後方支援と連携を期待したい。
②多様な活動の内容や主体と連携しつつ、地域再生法の活用などを意識しつつ地域再生のシナリオへと結び付けて行くのは、行政の責務であると考えます。広域連携行政の視点を忘れずに運営を行っていただきたい。

B：地域の悩みを行政ならではの視点で受け止めていただきたい。

§ 視点3 審査委員会への意見に対する地域及び、行政の取り組みについて

- ・ 指定時に審査委員会より付帯された意見について、平成17年度地域、行政それぞれがどのような取り組みを行ったか。

◎審査委員会の意見に対する地域の取り組みについて

A：①より一層の取り組みを期待する。
②とくに、人材育成については、期待するところ「大」です。

B：積極的に改善がなされている。

◎審査委員会の意見に対する行政の取り組みについて

A：①一層の取り組みをより強く期待する。

B：ウエルカム北海道エリア以外は行政連絡会議の報告の記載はないが一定のフォローは必要。

§ 視点4 現地視察における感想等

◎活動状況に関する感想

A：1) 地域活動には、①広がり、②深まり、③連携、④発信、が不可欠である。

これらを常に意識しながら、広域が連携した活動を期待します。

2) 国際的スタンダードを意識しながらの活動を期待します。

B：地域内の活動が安定して進捗しているので、誘客集客活動を含む外へ向けた活動にも力を入れる時期であると思う。(もっと足元を見つめたいという考えも分かるが)

外国人を含む外からの入り込み観光客が増え、地域の経済が潤うことで活動の評価が得られる。いろいろなイベントが企画され実施されているが、地域住民だけでなく外来の観光客も参加できるよう商品化の工夫をすべきである。

特に453・530キャンペーンや植栽活動など社会貢献的なイベントは現代人が好む「プログラムされた感動」にぴったりの旅行素材である。

◎運営状況に関する感想

A：1) 地域のコミュニティビジネスなどの創出を意識しながら、

特に若者の定住や他地域からの移住なども念頭に置いた

幅広い運営方針の検討も期待したい。

B：概ね運営計画に沿って運営が出来ていると思われ、関係者の努力に敬意を表したい。

§ その他全般的な感想

A：①「持続的発展性」、②「国際競争力」、③「通年性」、④「情報発信」、⑤「第三者評価」、そして⑥「地域再生」、⑦「人材育成」などを意識しながらの活動の連携と発展を期待します。

B：地域の皆様の真摯な取組に感銘を受けた。

この意欲を継続することを望みたい。

悩みもしっかりと承りました。

支援センターの役割や重要性も確認できた。

やはり実地視察をし、フェースツーフェースの話し合いをしないと取組の中身は見えてこない。

2. 大雪・富良野ルート

§ 視点1 ルート運営活動計画にもとづく活動状況について

- 平成17年度、ルート運営活動計画に基づき、実際に取り組みが行われているか。

◎景観づくり活動に関する感想

A：「住んでよし、訪れてよし」の景観づくりは、①光景、②風景、③情景が組立てられたプログラムづくりである。豊かな自然環境に恵まれたこのルートには、山河、季節など（普遍の存在）の光景資源は事欠かない。このルートでは光景資源の発見と体験という、景観づくりの初動期の活動が行われていると評価できる。農地等の保全などによる田園景観保全や農業施設の質の向上などの②風景（人手の加わった）づくりの活動が望まれる。

B：モデルルート時代からの取組の活動の歴史があり、多角的な活動が行われている。日本全国を対象に開始された「日本風景街道」の成功モデルとして、更なる取組の深度化を期待する。
ただ、「花人街道」のネーミングは若干違和感を覚えた。ルートの何処へ行っても花があり、そこで生活している地域住民がおられるというイメージであったが、広大な地域なので至る所に花と接する状況は作り出せないし、来訪者が地域の方々と気軽に接触し、交流を持つことが難しいと感じた。

◎地域づくり活動に関する感想

A：①地域住民による自主的な活動が徐々に始まってきている事を評価したい。
②種々、多様な活動主体の情報交換と連携活動、そしてその情報発信を期待したい。
③農村（農業ではなく）振興や地域人材育成を意識しながらの活動を期待する。

B：地域が抱えておられる悩みは他の地域と共通で人材確保・育成であるとおもわれる。地域の将来を担う子供世代を含む人材育成による継続的な改善意欲、新規事業へのチャレンジ等課題は多いと思われるが、成果と課題を数値化することにより定量化されたチャレンジ目標が作れないものか。

◎観光振興活動に関する感想

A：①地域力をつけることが、今日的なツーリズム（これまでの観光ではなく）に結びついてゆく。それゆえ地域のライフスタイルの創造と人材育成が重要となる。
目的としての観光振興ではなく、結果としてのツーリズム振興という考えも期待する。
②自然資源に加え、歴史資源、文化資源の発掘を期待したい。国際的競争力と通年性の確保のために。

B：現在は地域内の活動が中心であるように思われるが、旭山効果、北の国から効果等黙っていてもシーズンには大量の組織化された観光客が押し寄せる地域であるので、外に向けた集客活動は活動内容に見当たらない。限りなく個人旅行化している観光客に如何に快適に効果的に滞在していただくかの視点で外へ目を向けた取り組みが必要になって来ているのではないだろうか。大都市圏に向けた観光誘致活動の工夫をおこなうべきである。また、国内旅行振興に脱皮しようとしている旅行業との新たな連携も積極的に行っていただきたい。

★ 特に注目する活動

B : T-8 景観ルールづくり	【理由】 景観ルール作りは一步前進。
------------------	--------------------

◎行政の取り組みに対する感想

A : ①「花人街道」についての政策事後評価をしっかりと行い、地域主体の活動をどのような方法や仕組みで行うのかを確認し、今後の取り組みに反映する事が重要であろう。
B : 民間との連携は円滑に行われているように思われる。

§ 視点2 ルート運営状況について

- ・ ルート運営活動計画の基本方針に基づく、会議の開催、事務局体制等の運営状況について。

◎地域の運営状況について

A : ①これまでの活動や取り組みについての多面的な評価を、多くの関連領域の専門家等を交えながら、持続性と発展性を強く意識して、活動の広がりや深まり、そして連携をつくりながら運営していく事を期待したい。
B : 活発に行っており大いに成果が上がっている。

◎行政の運営状況について

A : ①人材育成（後継者育成も含め）や活動団体の研修などの後方支援と連携を期待したい。
②多様な活動の内容や主体と連携しつつ、地域再生法などを意識しつつ地域再生のシナリオへと結び付けて行くのは、行政の責務であると考えます。広域連携行政の視点を忘れずに運営を行っていただきたい。
B : 地域の悩みを積極的に吸い上げ、行政ならではの視点で受け止めていただきたい。

§ 視点3 審査委員会への意見に対する地域及び、行政の取り組みについて

- ・ 指定時に審査委員会より付帯された意見について、平成 17 年度地域、行政それぞれがどのような取り組みを行ったか。

◎審査委員会の意見に対する地域の取り組みについて

A : ①より一層の取り組みを期待する。
B : 積極的に改善がなされている。

◎審査委員会の意見に対する行政の取り組みについて

A : ①一層の取り組みをより強く期待する。

§ 視点4 現地視察における感想等

◎活動状況に関する感想

A：1) 地域活動には、①広がり、②深まり、③連携、④発信、が不可欠である。
これらを常に意識しながら、広域が連携した活動を期待します。

B：地域内の活動がかなり進捗しているので、誘客集客活動を含む外へ向けた活動にも力を入れる時期であると思う。

いろいろなイベントが企画され実施されているが、地域住民だけでなく外来の観光客も参加できるよう商品化の工夫をすべきである。

ゴミゼロキャンペーンや植栽活動など社会貢献的なイベントは現代人が好む「プログラムされた感動」にぴったりの旅行素材である。

◎運営状況に関する感想

A：1) 地域のコミュニティビジネスなどの創出を意識しながら、若者の定住や他地域からの移住なども念頭に置いた運営方針の検討も期待したい。

B：概ね運営計画に沿って運営が出来ていると思われ、関係者の努力に敬意を表したい。

§ その他全般的な感想

A：①「持続的発展性」、②「国際競争力」、③「通年性」、④「情報発信」、⑤「第三者評価」、そして⑥「地域再生」、⑦「人材育成」などを意識しながらの活動の連携と発展を期待します。

B：一度半日ルートの主だったところをご案内していただいたが、やはりフェースツーフェースの話し合いをしないと取組の中身は見えてこない。

表面的な感想で大変恐縮している。

3. 東オホーツクシーニックバイウェイ

§ 視点1 ルート運営活動計画にもとづく活動状況について

- 平成17年度、ルート運営活動計画に基づき、実際に取り組みが行われているか。

◎ 景観づくり活動に関する感想

A : ①「住んでよし、訪れてよし」の景観づくりは、①光景、②風景、③情景の視点が組立てられたプログラムづくりである。世界的自然環境に恵まれたこのルートには、光景資源は事欠かない。現時点の活動はルート指定を契機とした光景資源の発見と体験という、景観づくりの初動期の連携が活発に行われていると評価できる。丘陵部の田園風景の保全や海岸部の既存観光施設の高質化（国際水準を意識した）などを含む、「風景（人がつくり出した）」「情景（人びとの生業とライフスタイル）」の創出活動へと広がってゆく事を期待したい。
B : 世界級の景観資源に恵まれた地域であるが、その優位性をされに磨きをかける取組がなされ、ストーリー性、感性に訴えかけるアプローチをされているように見受けられる。 日本全国を対象に開始された「日本風景街道」の成功モデルとして、更なる取組の深度化を期待する。

◎ 地域づくり活動に関する感想

A : ①地域のコミュニティビジネスなどについても意識しつつ、「広域で助け合いつつ地域を再生する」という視点を忘れずに活動を発展させてゆくことを期待したい。
B : 旅行業経験者が地域をリードし、活動している姿に接し大変嬉しく感じた。 地域が抱えておられる悩みは継続性確保のための人材確保・育成であろうと思われる。 地域の将来を担う子供世代を含む人材育成による継続的な改善意欲、新規事業へのチャレンジ等課題は多いと思われるが、成果と課題を数値化することにより定量化されたチャレンジ目標が作れないものかと感じた。

◎ 観光振興活動に関する感想

A : ①これまでの「観光」から、これからの「ツーリズム」へと舵を切っている途上、ライフスタイルの創造・発信なども念頭に置き、「献上型観光からお裾分けツーリズム」へと意識を変えつつ、今後の活動を期待したい。
B : 旅のあり方、旅のメニューの創造等旅行商品化しやすい取組をされていることに感銘を受けた。外国人観光客モニターツアー、旅行会社の商品企画調査団のように外へ目を向けた取り組みを先進的に行っていただきたい。

★ 特に注目する活動

B : H-3 ビューポイント探し景観バスツアー	【理由】魅力発掘のためまざる努力
--------------------------	------------------

◎行政の取り組みに対する感想

A：①住民やNPO、企業などによる多様な地域活動を、大きな視点で「地域再生のシナリオづくり」とその「実現化のシステム」を考え、北海道・地元自治体・地域住民・活動団他・企業などとの協働で進めてゆく事を期待したい。

B：活動の主体を民間に任せている感がある。

これはある意味では望ましいことではあるが、距離を置きつつもフォローは必要。

§ 視点2 ルート運営状況について

- ・ ルート運営活動計画の基本方針に基づく、会議の開催、事務局体制等の運営状況について。

◎地域の運営状況について

A：①これまでの活動や取り組みについての多面的な評価を、多くの関連領域の専門家等を交えながら、持続性と発展性を強く意識して、活動の広がりや深まり、そして連携をつくりながら運営していく事を期待したい。

B：民間との連携も円滑に行われている。

◎行政の運営状況について

A：①人材育成（後継者育成も含め）や活動団体の研修などの後方支援と連携を期待したい。

②多様な活動の内容や主体と連携しつつ、地域再生法などを意識しつつ地域再生のシナリオへと結び付けて行くのは、行政の責務であると考えます。広域連携行政の視点を忘れずに運営を行っていただきたい。

B：地域の悩みを積極的に吸い上げ、行政ならではの視点で受け止めていただきたい。

§ 視点3 審査委員会への意見に対する地域及び、行政の取り組みについて

- ・ 指定時に審査委員会より付帯された意見について、平成17年度地域、行政それぞれがどのような取り組みを行ったか。

◎審査委員会の意見に対する地域の取り組みについて

A：①インターフェイスとしてのリソースセンターと並行・自立的に連携しつつ、より一層の取り組みを期待する。

積極的に改善がなされている。

◎審査委員会の意見に対する行政の取り組みについて

A：①広域行政という視点から、一層の支援と取り組みを強く期待する。

§ 視点4 現地視察における感想等

◎活動状況に関する感想

A：1) 地域活動には、①広がり、②深まり、③連携、④発信、が不可欠である。

これらを常に意識しながら、広域が連携した活動を期待します。

B：図らずも道路局主催の「日本風景街道」戦略会議に参加した。

世界に通用する景観形成と地域づくりにチャレンジされているとの感想を持った。

今後資源保存と観光振興の問題に直面すると思われるが、知恵と努力で克服していただきたいと思う。

いろいろなイベントが企画され実施されているが、地域住民だけでなく外来の観光客も参加できるよう商品化の工夫をしていただいているようである。

◎運営状況に関する感想

A：1) 地域のコミュニティビジネスなどの創出を意識しながら、農村振興や若者の定住なども念頭に置いた運営方針の検討も期待したい。

B：概ね運営計画に沿って運営が出来ていると思われ、関係者の努力に敬意を表したい。

§ その他全般的な感想

B：地域の皆様の真摯な取組に感銘を受けた。

この意欲を継続することを望みたい。

やはり実地視察をし、フェースツーフェースの話し合いをしないと取組の中身は見えてこない。